

<生活環境>

●「公害なく安心して暮らせるまち」を望む市民

- ・多くの市民が「公害なく安心して暮らせるまち」を望んでいます。
- ・大気などの環境基準は達成されていますが、一部の河川では季節によって水質悪化がみられます。また水辺環境の水質に対する市民評価も低いことから、さらなる水質改善と市民へのわかりやすい情報提供が求められます。

●親しみやすい水辺環境への期待

- ・河川や海等の水辺環境に愛着を持たない市民が多く、親しみやすい水辺環境の創出が求められます。

●畜産臭気対策に対する継続的な取組

- ・畜産業からの臭気低減対策を着実かつ継続的に推進し、市民の満足度を高めていくことが求められます。

<地球温暖化>

●2050年度CO₂排出量実質ゼロに向けた大幅な温室効果ガス削減が必要

- ・ゼロカーボンシティの実現に向け、計画的かつ積極的な地球温暖化対策が求められます。

●市民は地球温暖化対策の重要性を認識

- ・市民の中で地球温暖化対策の重要性は十分に認識されています。
- ・現在の生活の中で、市民一人ひとりが身近にできることへの意識付けと取組推進のための施策充実が求められます。

●市内で複数の大型バイオマス発電施設が稼働

- ・市内には2か所の大型木質バイオマス発電施設が立地・稼働し、新たに畜産ふん尿等によるバイオガス発電施設も稼働予定で、再生可能エネルギーのポテンシャルが高まっています。

●「気候変動への適応」の浸透

- ・気候変動による影響が現れており、温室効果ガスの削減と同時に、農業や防災減災、健康面での対策など、気候変動への適応も進めていくことが求められます。

<ごみ・廃棄物>

●ごみ減量・分別のさらなる推進が必要

- ・家庭系ごみのさらなる減量化を進める必要があります。広域化に伴う制度変更とあわせた積極的かつ効果的な施策や普及啓発が望まれます。また、食品ロス問題への対応が求められます。

●バイオマス産業都市としての取り組み

- ・生ごみ、食品廃棄物、畜産ふん尿等を原料としたバイオガス発電によって発生した電気・熱・排ガスなどを地域内で利用する事業が2021年度から始まります。

●求められるプラスチックごみ対策

- ・プラスチックごみによる海洋汚染などへの対応が求められます。

<自然環境>

●充実しつつある公園緑地

- ・市内では公園や市民農園の整備が進み、緑地等が確保されつつあり、市民の緑の豊かさや公園に対する市民の評価も高まっています。

●水生生物調査や自然観察会の継続的な開催

- ・水生生物調査や自然観察会など、自然環境に親しみふれあえる場や機会が定期的に行われています。
- ・外来生物対策など生物多様性の保全に向けたさらなる取組や普及啓発が求められます。

●求められる耕作放棄地の有効活用

- ・耕作放棄地が増加しており、就農支援・農業振興による農地保全と、耕作放棄地の有効活用が求められます。

<環境学習・環境行動>

●多世代にわたる環境学習の展開

- ・市民参加型の環境学習イベントや保育園等への出前講座が開催され、多様な連携が進んでいます。子どもから大人まで多世代にわたる環境学習をさらに進め、市民の環境に対する意識を高め、行動につなげていくことが求められます。

●郷土への愛着の育成

- ・地域の歴史的・文化的資源の保全・継承が進みつつあります。多くの市民が郷土に愛着をもち、地域の歴史や文化的価値を大切にすることを育んでいくことが望まれます。

●市民・事業者・行政の連携による環境保全活動の推進

- ・地域の環境保全活動に参加している市民・事業者は半数以下となっています。市民・事業者・行政の連携による、環境保全活動への積極的な参加が求められます。
- ・事業者にとっては、参加しやすい仕組みづくりと参加によるメリット向上が求められます。

柱1. ひとにやさしく、快適な環境で安心して暮らせるまち

大気や水質などを良好な状態に維持することで、人の健康や生活環境の保全を図り、市民が安心して暮らすことのできるまちづくりを進めます。

1-1 公害のない安心・安全な暮らしの確保

1-1-1 事業活動等から生じる典型7公害に係る環境基準及び関連規制を満たします。

1-1-2 ため池の水質改善を図ります。

1-1-3 河川・海域の水質改善を図ります。

1-1-4 地場産業である畜産業の発展のため、ふん尿処理に起因する臭気について、対策を図ります。

1-2 快適な市民生活環境の確保

1-2-1 交通流円滑化・交通量低減対策を図り、交通渋滞を解消します。

1-2-2 住環境の向上を図るため、市街地を整備します。

1-2-3 生活に起因する環境問題について、適切な対策を図ります。

■施策の進捗を見る指標・目標

指標名		前期分					後期分					延長分	
		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
大気汚染に係る環境基準達成率 (%)	二酸化硫黄	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
		基準値：100 (H19) 目標値：100					基準値：100 (H24) 目標値：100					目標値：100	
	二酸化窒素	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
		基準値：100 (H19) 目標値：100					基準値：100 (H24) 目標値：100					目標値：100	
浮遊粒子状物質	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
	基準値：75 (H19) 目標値：100					基準値：100 (H24) 目標値：100					目標値：100		
ダイオキシン類	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
	基準値：100 (H19) 目標値：100					基準値：100 (H24) 目標値：100					目標値：100		
河川のBOD濃度 (mg/L)	神戸川	7.9	10.4	7.0	8.8	6.8	7.0	6.0	4.8	4.7	5.4	4.8	
		基準値：7.6 (H19) 目標値：6.3					基準値：8.8 (H24) 目標値：5.0					目標値：5.0	
	矢勝川	6.7	8.1	8.7	8.2	9.2	13.6	9.6	10.9	10.9	10.5	9.6	
		基準値：6.8 (H19) 目標値：5.9					基準値：8.2 (H24) 目標値：5.0					目標値：5.0	
	阿久比川	2.6	4.6	2.4	2.0	2.3	2.7	2.3	2.3	3.6	2.5	2.3	
		基準値：2.5 (H19) 目標値：2.5					基準値：2.5 (H19) 目標値：2.5					目標値：2.5	
	十ヶ川	2.2	4.2	1.9	1.9	2.1	2.5	1.8	2.0	1.9	1.6	1.8	
		基準値：2.0 (H19) 目標値：2.0					基準値：2.0 (H19) 目標値：2.0					目標値：2.0	
稗田川	9.7	11.3	8.7	9.7	7.5	7.7	6.3	5.5	5.7	5.1	5.5		
	基準値：11.1 (H19) 目標値：8.1					基準値：9.7 (H24) 目標値：5.0					目標値：5.0		
公共下水道 (%)	人口普及率	81.4	82.4	83.4	84.2	86.6	86.6	88.5	89.0	89.0	89.0	89.1	
		基準値：75.7 (H19) 目標値：88.5					基準値：84.2 (H24) 目標値：91.0					目標値：89.1	
	整備率 (市街化区域内)	79.8	80.9	82.0	82.9	84.1	85.0	86.9	87.6	96.1	96.1	96.1	
基準値：75.8 (H19) 目標値：92.9					基準値：82.9 (H24) 目標値：100					目標値：96.5			
(アンケート) 悪臭がなく空気がきれいと思う市民の割合 (%)		—	—	—	—	51.2	—	—	—	—	—	61.0	
		基準値：42.2 (H18) 目標値：60.0					基準値：51.2 (H25) 目標値：80.0					目標値：80.0	

■市内外の動き

- ・市内では、雑草繁茂や個人による生活騒音など日常生活への影響に対する苦情相談が増加傾向にあります。

■意識調査結果より

- ・市の理想像として5割弱の市民が「公害なく安心して暮らせるまち」を望んでいます。
- ・また、地域環境保全において重要な対策として、「大気汚染対策」、「海の水質改善」、「川の水質改善」、「ポイ捨て対策」が上位となっています。
- ・地域の環境について「騒音や振動がない」と思う市民は7割と、評価が高い状況です。
- ・一方、「畜産による臭気がない」と思わない市民は5割強、「川、池、海がきれい」と思わない市民は4割程度と、他の項目と比べて満足度が低い状況です。
- ・川や池の水質改善のために重要な取組としては、「水に対する環境意識向上」、「公共下水道への接続や合併浄化槽への設置換え」との回答が多く、3割以上となっています。
- ・事業者の「半田市環境保全協定」の認知度は3割に満たず、普及啓発が求められます。

■市民評価（意見・提案）

<評価できる点>

- 大気汚染に係る環境基準は概ね目標を達成できている。
- 臭気に対して様々な取り組みができており、対策の効果もみられる。
- 大気汚染、河川の水質などの公害のないまちづくりへの見直しや対策が継続して行われて、成果が現れている。
- 公共下水道普及率などが着実に改善され、生活環境が改善された。

市民評価



A

<今後の課題及び期待したい点>

- 河川、特に矢勝川の環境基準達成に向けて、さらなる対策が必要である。
- 水質分析調査の指標について、一般市民にわかりやすく公表する必要がある。
- 自然環境に配慮した池や川の整備が、目に見える形で実行されることを期待する。
- 臭気低減対策を一層推進して、市街地において悪臭が低減されることを期待する。
- 交通渋滞の緩和は大きな課題である。
- 今後、自動車運転免許の返納にも関連し、自転車道整備に力を入れていただきたい。
- ゴミ等のポイ捨て、犬・地域猫の糞害の改善に期待する。

■今後の方向性

- ・河川、特に矢勝川において、多様な連携と普及啓発によりさらなる水質改善が求められます。
- ・畜産業からのさらなる臭気低減対策を推進し、市民の満足度を高めていくことが求められます。
- ・高齢化や生活スタイル・価値観の多様化などを受け、雑草繁茂や生活騒音などの近隣公害への対応が求められます。
- ・下水道整備や合併処理浄化槽設置による生活排水対策を着実に推進し、河川などの水質浄化につなげていくことが求められます。

柱2. 地球環境を守り、持続可能な社会を目指すまち

温室効果ガスの排出を抑制するとともに、ごみ減量・リサイクル等により環境への負荷を低減し、持続可能なまちづくりを進めます。

2-1 温室効果ガス排出量の削減

- 2-1-1 市内の温室効果ガス排出量を把握し、地球温暖化対策を各分野ごとに効果的に推進します
- 2-1-2 産業・業務部門での対策を推進します
- 2-1-3 運輸部門での対策を推進します
- 2-1-4 家庭部門での対策を推進します
- 2-1-5 市（行政）において率先して行動します

2-2 資源循環型社会の構築

- 2-2-1 ごみを出さない（発生抑制）ライフスタイルや事業活動を促進します
- 2-2-2 リユース（再使用）・リサイクル（再生利用）を推進します
- 2-2-3 廃棄物の適正処理を推進します

2-3 環境に配慮した事業活動の展開

- 2-3-1 環境マネジメントシステムの導入を図ります
- 2-3-2 事業者による周辺住民との自主的なリスクコミュニケーションを促進します
- 2-3-3 中小企業等の環境に配慮した事業活動を推進します

■施策の進捗を見る指標・目標

指標名		前期分					後期分					延長分	
		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
1世帯当たりの年間使用量	電気 (kWh)	5,477	5,816	5,526	5,436	5,392	5,061	4,752	—	4,904	4,736	4,610	
		基準値：5,780 (H19) 目標値：5,500				基準値：5,436 (H24) 目標値：5,200				目標値：5,000			
	都市ガス (m ³)	390*	395	397	405	409	409	395	392	377	—	—	
		基準値：408 (H19) 目標値：390				基準値：409 (H23) 目標値：390				目標値：360			
環境配慮型住宅用設備の導入件数 (累計数)	太陽光発電システム	462	737	1,086	1,428	1,928	2,386	2,798	3,117	3,412	3,719	3,961	
		基準値：305 (H19) 目標値：550				基準値：1,428 (H24) 目標値：2,400				目標値：4,000			
	高効率給湯器	2,873	3,566	4,249	5,071	5,800	6,164	6,828	7,452	8,134	8,810	9,428	
		基準値：1,636 (H19) 目標値：4,500				基準値：5,071 (H24) 目標値：7,000				目標値：10,100			
家庭部門 CO2 排出量 (千トン CO2)		-	-	170*	180	190	198	178	175	155	154	159	
		-				基準値：190 (H23) 目標値：185				目標値：153			
市民1人1日当たりのごみ排出量 (g/人・日)	総ごみ量	1,033	1,010	996	992	984	955	951	947	929	919	936	
		基準値：1,090 (H19) 目標値：1,010				基準値：992 (H24) 目標値：915				目標値：846			
	生活系ごみ量	-	-	-	599	594	585	578	582	575	577	578	
		-				基準値：599 (H24) 目標値：542				目標値：510			
リサイクル率 (%)		19.2	19.1	24.9	24.1	24.1	23.6	23.6	22.8	22.4	20.8	22.7	
		基準値：20.3 (H19) 目標値：24.0				基準値：24.1 (H24) 目標値：30.0				目標値：27.4			
エコ事業所登録数 (累計数)		-	-	-	89	141	170	171	170	171	172	173	
		-				基準値：89 (H24) 目標値：300				目標値：300			
エコファミリー登録世帯数 (累計数)		-	-	-	515	1,216	1,522	1,802	1,820	1,824	1,839	1,846	
		-				基準値：515 (H24) 目標値：2,500				目標値：2,500			

※2年度前の実績値を掲載、以降の年度も同様（H21はH19の実績値）

■市内外の動き

- ・パリ協定など世界的な動向を受けた脱炭素社会への転換が求められます。
- ・気候変動への緩和と適応の両輪からの推進が必要となっています。
- ・本市では、2016年にバイオマス産業都市に認定され、民間事業者がバイオマス利活用施設の整備を進めています。また、市内に2か所の大型木質バイオマス発電施設が立地しています。
- ・本市では2020年2月に「ゼロカーボンシティ」（2050年二酸化炭素（CO2）排出実質ゼロ）に挑戦することを表明しました。
- ・海洋プラスチック問題や食品ロス問題など、新たな課題への対応が求められます。

■意識調査結果より

- ・地球温暖化対策の重要性は認識されていますが、現在の生活水準のまま取組みたいと考えている市民が半数程度です。
- ・日常生活では、省エネルギー製品やLEDの選択、エコドライブなど負担が小さく経済的メリットのある取組が進んでいます。事業所では、冷暖房の適温設定や廃棄物減少など日常的な業務内での取組が進んでいます。市民、事業者ともに太陽光発電システムや蓄電池などの導入コストが高い取組は進んでいない状況です。
- ・市民の環境に配慮した行動が全体的に進む中で、「生ごみの水切り」と「レジ袋削減」は、市民の3割以上が「常に」でなく「時々」実行するとしており、さらなる徹底が望まれます。特に20～30代でその傾向が顕著です。
- ・資源ごみが分別されない原因として、「分別する効果を実感できないから」（25.9%）、「資源ごみなのかかわらず、判断に困るから」（24.1%）が多く、分別の効果や方法をわかりやすく啓発していくことが求められます。

■市民評価（意見・提案）

<評価できる点>

- 温室効果ガス排出量の削減に向け、多くの企業・市民の協働連携が実践されている。
- 住宅用太陽光発電システムの導入が進み、家庭部門の削減目標が達成されている。
- 総ごみ量が、平成19年度から15%削減が進んでいる。
- 市民1人1日当たりのごみ排出量が着実に改善されつつある。
- 事業者や大学と連携してバイオマス利用が推進されている。

<今後の課題及び期待したい点>

- エコ事業所やエコファミリーの登録件数が伸びておらず、普及啓発と内容充実が必要である。
- CO2削減に向け、市民一人ひとりが身近にできることへの意識付けが大切である。
- 太陽光発電システムや蓄電システムは、災害時の停電・断水等の対策と関連させた普及に期待する。
- 広域化に伴う制度変更とあわせた積極的、効果的なごみ減量の施策や普及啓発が必要である。
- 熱エネルギー供給システムなどは、市民協働事業などにより身近な問題としていくべきである。

市民評価



B

■今後の方向性

- ・2050年温室効果ガス排出量実質ゼロに向けた地球温暖化対策のさらなる推進が求められます。
- ・災害時対応の視点も含めた、太陽光やバイオマス等再生可能エネルギーの普及拡大が求められます。
- ・気候変動への適応の推進が求められます。
- ・生ごみ削減や分別の徹底など、家庭系ごみのさらなる減量化と若年層などターゲットを絞った普及啓発に取り組む必要があります。
- ・海洋プラスチック問題や食品ロス問題など、新たな課題への対応が求められます。
- ・市民・事業者の行動変容を促すための効果的な施策やわかりやすい普及啓発が求められます。

柱3. 豊かな自然を守り、自然と共生するまち

河川・ため池・農地など身近な自然環境を保全することで、生物の多様性及び生態系の適正な維持を図り、自然と共生するまちづくりを進めます。

3-1 うるおいのある緑・水空間の整備

3-1-1 緑や水と親しみ、身近に感じられる場を保全・創造します

3-2 生物多様性の保全

3-2-1 生態系ネットワークに配慮した自然環境保全及び整備を推進します

3-2-2 特定外来生物についての対策を図ります

3-3 環境面からの農業振興

3-3-1 環境保全機能を持つ農地を保全します

3-3-2 緑地確保のため農地の活用を図ります

3-3-3 地産地消を推進します

■施策の進捗を見る指標・目標

指標名	前期分					後期分					延長分	
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
一人あたりの公園・緑地面積	5.8	5.8	6.2	6.2	6.2	7.1	7.1	7.4	8.1	8.1	8.5	
	基準値：5.8 (H19) 目標値：6.0					基準値：6.2 (H24) 目標値：7.0					目標値：8.5	
耕作放棄地の面積(ha)	45.3	36.3	33.6	29.3	27.4	28.4	33.0	34.5	35.2	33.8	33.4	
	基準値：61.0 (H19) 目標値：61.0					基準値：29.3 (H24) 目標値：25.0					目標値：20.0	
市民農園の面積(m ²)	11,384	19,796	24,863	26,297	27,757	27,757	27,757	27,757	27,757	27,757	27,757	
	基準値：9,550 (H19) 目標値：12,000					基準値：26,297 (H24) 目標値：26,297					目標値：27,757	

■市内外の動き

- ・COP10で採択された愛知目標2020の目標年次を迎え、生物多様性保全のための新たな目標が提示されます。
- ・市内では公園や市民農園の整備が進み、緑地等の確保につながっています。

■意識調査結果より

- ・地域の環境について、「緑が豊かである」と思う人は77.5%、「公園が近くにある」と思う人は69.2%と多く、市内の緑地や公園の多さに対する評価が高い状況です。
- ・一方で、「愛着が持てる川、池、海がある」と思う人は39.4%、「川、池、海がきれい」と思う人は39.8%と、水辺環境への評価が低い状況です。
- ・川、池、海などで水と親しむ機会を増やすために重要な取組としては、「水辺のごみ拾いや美化活動の推進」、「親水公園など施設整備」の回答が多くなっています。
- ・市民の環境に配慮した行動が全体的に進んでいる中で、「花や樹木を植えて緑を増やす」ことに取り組んでいる人は66.3%と他の項目と比べて少ない状況です。
- ・外来生物駆除について、73.1%の市民が協力の意向を示しています。

■市民評価（意見・提案）

<評価できる点>

- 1人当たりの公園・緑地面積が増え、自然に触れあい楽しめる公園や河川が整備されている。
- 水生生物調査や自然観察会など、環境教育の場が定期的で開催されている。
- 「はんだ水辺マップ」を作成・配布し、環境意識の向上に役立っている。
- 耕作放棄地の削減に向けた対策がなされている。

市民評価



A

<今後の課題及び期待したい点>

- 1人当たりの公園・緑地面積は、他の市町村と比較はまだ少なく、更に充実させていく必要がある。
- 多様な機能を備えた総合公園を増やしてほしい。
- 希少野生種や特定外来生物の生息調査等を行い、生物多様性についての啓発に期待する。
- 増加する耕作放棄地について、農業を行いたい人への紹介システム整備、市民農園としての活用、市民・企業との連携による展開、市民への普及啓発などによる改善に期待する。
- 道の駅等の地元農産物を販売する場の整備が求められる。

■今後の方向性

- ・公園緑地の多様な機能の見直しと、市街地における緑化のさらなる推進が求められます。
- ・自然環境に配慮した、市民が親しみをもてる池や川など水辺環境の創出を進めていくことが求められます。
- ・今後も水生生物調査や自然観察会など、環境教育の場の継続が求められます。
- ・市民を巻き込んだ外来生物対策の継続的な実施が求められます。
- ・就農支援・農業振興による農地保全と耕作放棄地の有効活用が求められます。
- ・多様な連携による地産地消の推進が求められます。

柱4. 美しいふるさとと、歴史や文化を大切にすまち

地域の歴史的・文化的環境資源を保全・継承し、美しく半田らしい景観の整備を図ることで、歴史や文化を大切にすまちづくりを進めます。

4-1 美しく半田らしい景観の整備

4-1-1 美しいまち並みを保全・創造します

4-2 歴史的・文化的環境資源の保全と継承

4-2-1 地域の歴史的・文化的資源を保全・継承するとともに、環境に配慮した観光資源の整備を推進します

4-3 ゆとりややすらぎ、活気のある空間の整備

4-3-1 公園や広場等の市民が憩う場の整備を推進します

4-3-2 環境に配慮した中心市街地の整備を推進します

■施策の進捗を見る指標・目標

指標名	前期分					後期分					延長分	
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
(アンケート) まち並みがよく調和している と思う市民の割合 (%)	—	—	—	—	41.1	—	—	—	—	—	68.1	
	基準値：31.7 (H19) 目標値：40.0					基準値：41.1 (H24) 目標値：50.0					目標値：50.0	
※再掲 1人当たりの公園・緑地面積(m ² /人)	5.8	5.8	6.2	6.2	6.2	7.1	7.1	7.4	8.1	8.1	8.5	
	基準値：5.8 (H19) 目標値：6.0					基準値：6.2 (H24) 目標値：7.0					目標値：8.5	

■市内外の動き

—

■意識調査結果より

—

■市民評価（意見・提案）

<評価できる点>

- 半田運河周辺の景観整備が進み、イベント開催や SNS を活用して幅広い世代に伝わった。
- 環境に配慮したイベント運営がなされた。
- 地域の歴史的・文化的資源が保全・継承され、市民に分かりやすく啓発され、観光資源としても充実しつつある。
- 公園など、子どもが安心して遊べる場や市民がふれあう憩いの場の整備が進んだ。

市民評価



A

<今後の課題及び期待したい点>

- J R 半田駅周辺の区画整理や武豊線の高架化により、東西の往来の活発化と賑わいの復活に期待したい。
- 空き家を有効活用できるシステムづくりが必要である。
- 半田の素晴らしい歴史や文化について市民がよく理解しておらず、広く定着することに期待する。
- 半田の山車文化・歴史などについて、更なる P R の充実などより一層の魅力づくりにつなげることを期待する。
- 地域の文化遺産として、残された巨樹を大切にすることが必要である。
- 郷土に愛着が持てるよう、郷土の歴史や文化的価値を見直す取組が必要である。
- 公園・緑地に対する市民の満足度や求める機能などの把握に務めてほしい。

■今後の方向性

- ・歴史・文化的環境資源など、郷土への愛着の育成が求められます。
- ・半田の歴史・文化的環境資源の価値の見直しと効果的な P R が求められます。
- ・地域の文化遺産としての巨樹保全が求められます。
- ・公園緑地の満足度の向上が求められます。

柱5. みんなで環境を守り育てるまち

各主体が良好なパートナーシップを形成し、環境学習や環境保全活動への参加・協働を通じて、みんなが環境を守り育てるまちづくりを進めます。

5-1 環境学習の推進

- 5-1-1 あらゆる世代への環境学習を支援します
- 5-1-2 地域と学校が連携した環境学習を推進します
- 5-1-3 環境学習指導者や地域での環境活動の担い手となる指導者を養成します

5-2 市民・事業者・行政による良好なパートナーシップの形成

- 5-2-1 地域・事業者・行政など各主体間の連携を図ります
- 5-2-2 各主体間における環境情報の共有及び活性化を図ります
- 5-2-3 環境NPOや環境保全団体等の育成及び活動を支援します

■施策の進捗を見る指標・目標

指標名	前期分					後期分					延長分	
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
環境学習イベントの参加人数(人)	239	—	—	538	767	879	1,194	1,065	796	1,509	1,185	
	—					基準値：538 (H24) 目標値：600					目標値：1,500	
アダプトプログラム	登録者数(人)	8,000	7,286	7,291	7,383	8,057	8,106	9,563	8,993	9,064	9,170	7,077
		基準値：8,022 (H19) 目標値：8,800					基準値：7,383 (H24) 目標値：8,500					目標値：9,400
登録団体(団体)	登録者数(人)	172	166	169	181	168	172	156	168	172	178	182
		基準値：147 (H19) 目標値：200					基準値：181 (H24) 目標値：250					目標値：250
(アンケート)環境保全活動に参加したことがある割合(%)	市民	—	—	—	—	13.3	38.9	—	47.0	—	43.0	58.4
		基準値：16.6 (H18) 目標値：28.0					基準値：13.3 (H25) 目標値：40.0					目標値：50.0
事業者	事業者	—	—	—	—	33.9	—	—	—	—	—	63.2
		基準値：27.0 (H18) 目標値：40.0					基準値：33.9 (H25) 目標値：50.0					目標値：50.0

■市内外の動き

—

■意識調査結果より

- ・小中学生やその家族において、ポイ捨てはしない人は96.0%と多いものの、捨てられているごみを拾っている人は47.6%となっており、一步踏み込んだ環境保全への取組が求められます。
- ・参加している環境保全活動は、市民・事業者ともに「資源のリサイクル活動」、「地域の川・道路でのごみ拾い・美化活動」が多い状況です。
- ・一方で、市民の41.6%、事業者の36.8%が環境保全活動に参加しておらず、積極的な参加が求められます。事業者が参加していない理由としては「参加している余裕がない」、「参加する必要がない」が多く、参加しやすい仕組みづくりと参加によるメリット向上が求められます。

■市民評価（意見・提案）

<評価できる点>

- 環境学習イベント参加人数及びアダプトプログラム登録者数が、目標を継続的に上回っており評価できる。
- 市民参加型の環境学習イベントや学校への環境学習出前講座が継続して実施されており効果が現れてきている。
- 環境学習事業について、事業者と行政の連携が図られている。

市民評価



A

<今後の課題及び期待したい点>

- 大人や未就学児なども含め、全世代に対応した環境教育の開催が必要である。
- 環境に対する身近な問題意識や知識を得た人が、その知識を活用し、環境を守り育てる活動が求められると共に、活動しやすい環境を行政として整備していくべきである。
- 生活系ごみやプラごみ対策に特化した環境学習を事業者も参画して実施できるとよい。
- 広域クリーンセンターにおける環境学習と環境行動の拠点整備が必要である。
- 企業支援による環境学習の推進に期待する。
- アダプトプログラムの周知を行い、着実に展開する事が必要である。

■今後の方向性

- ・市民・企業など多様な連携による、多世代にわたる環境学習の推進が求められます。
- ・生活系ごみやプラごみなど、新たな課題や特定の課題に対応した環境学習の実施が求められます。
- ・市民・事業者のより一層の意識向上と行動変容の推進が求められます。
- ・市民・事業者・行政の連携による環境保全活動の推進が求められます。
- ・事業者における環境配慮行動の価値向上と参加しやすい仕組みづくりが求められます。